

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 総合評価 2016年版、CASBEE 環境負荷低減性評価 2016年版、CASBEE ライフサイクルCO₂評価 2016年版 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	明照庵	階数	地上4F
建設地	熱田区尾頭町303番の一部、304番	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	77 人
地域区分	6地域	年間使用時間	0 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年1月 予定	評価の実施日	2026年1月21日
敷地面積	1,549 m ²	作成者	
建築面積	584 m ²	確認日	
延床面積	2,098 m ²	確認者	

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 2.3 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆☆

30% ☆☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 100% ☆☆☆☆☆ 100%超: ☆

標準計算

①参照値	0	46	92	138
②建築物の取組み	0	46	92	138
③上記+②以外のオンサイト手法	0	46	92	138
④上記+オフサイト手法	0	46	92	138

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.7

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.6

音環境	4.0
温熱環境	3.6
光・視環境	2.7
空気質環境	4.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 4.1

機能性	4.5
耐用性・信頼性	4.2
対応性・更新性	3.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 3.4

生物環境	4.0
まちなみ・景観	4.0
地域性・アメニティ	2.0

LR のスコア = 3.8

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.6

建物外皮の熱負荷	5.0
自然エネルギー	2.0
設備システム効率化	5.0
効率的運用	4.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.6

水資源保護	4.0
非再生材料の使用削減	3.0
汚染物質回避	5.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.0

地球温暖化への配慮	2.7
地域環境への配慮	3.1
周辺環境への配慮	3.2

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
鉄骨造4階建の共同住宅を建築するにあたり、隣地との高低差を考慮し最良の地盤高を設定し、周辺の住環境と調和した計画とし、建築物に関しては、ZEH-M Ready 基準に適合させた高断熱、高品質の計画とした。また、屋外に関しては敷地内の緑化に努めて環境にも配慮している。		・低騒音型重機の採用。
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
・室内の温熱・空気環境の快適性を確保し、健康的な執務環境を実現する。・高断熱サッシ: Low-Eガラスを採用し、温熱環境を改善。・遮音性能(界壁・床)を確保し、生活音の伝搬を低減。・LED照明の採用により省エネに配慮。	・利用者の利便性・安全性を高め、長期的に使いやすい建物とする。・メンテナンス性を考慮した設備配置。・防犯性向上のためのオートロックや防犯カメラ設置。・宅配ボックスの設置により利便性を向上。・バリアフリー設計	・敷地内の緑化に努め、周辺環境への負荷を低減しヒートアイランドの抑制。・駐輪場・駐車場の動線を安全に計画。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
・建物のエネルギー消費を削減し、運用時の環境負荷を低減する。・外皮性能強化により一次エネルギー消費量を削減 (ZEH-M Ready 基準に適合)。・太陽光発電設備の設置。・高効率空調機器の導入。・高効率給湯器(エコジョーズ)の採用。	・資源の有効利用と廃棄物削減を図る。・長寿命化を考慮した部材の利用。・リサイクル材を含む建材の採用。・工事中の分別回収計画の徹底。	・周辺環境への負荷(騒音・排水・熱負荷など)を最小限に抑える。・低騒音型設備機器の採用。・工事中の粉じん・騒音対策の徹底。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

明照庵

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
1. 温暖化対策				4.1
LR1	エネルギー	4.6	0.4	/
LR3.1	地球温暖化への配慮	2.7	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				3.2
Q3.1	生物環境の保全と創出	4.0	0.09	/
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.045	
3. 循環型社会				3.2
LR2.1	水資源保護	4.0	0.06	/
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.0	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.3	0.01875	

結果

1. 温暖化対策	評価点 = 4.1
	
2. 自然共生	評価点 = 3.2
	
3. 循環型社会	評価点 = 3.2
	

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。